



医療安全通信 第60号

【薬局部 医療安全委員会】

医療安全推進のため、Pharma Bridgeを通じて、医療安全上の周知すべき情報やタイムリーな話題を随時発信いたします。業務手順書の書換えや日常業務にお役立てください。

腎機能低下時に注意の必要な薬剤投与量について

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業の「共有すべき事例」2019年 No. 2には『腎機能低下患者の投与量』についての事例が掲載されています。
http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/pdf/sharing_case_2019_02.pdf

◆ **事例の内容**

蜂窩織炎疑いの90歳代の患者にクラビット錠500mg 1日1回1錠朝食後4日分が処方され、本日は夕食後に服用するよう指示があった。患者のeGFRは45.4mL/minであり、投与量の調整が必要と考えた。処方医に疑義照会を行い、初日はクラビット錠500mg 1日1回1錠とし、翌日からクラビット錠250mg 1日1回1錠に減量することとなった。

◆ **背景・要因**

保険薬局においては患者から臨床検査データを聴取することが難しい場合があるが、今回はケアマネジャーなどとの多職種連携ができていたために情報の入手が可能となり、適切な疑義照会が可能となった。

◆ **薬局が考えた改善策**

今後も多職種連携を強化し、患者情報の共有化に努める。

◆ **その他の情報**

クラビット錠250mg/500mg/細粒10%の添付文書（一部抜粋）

【用法・用量】

<用法・用量に関連する使用上の注意>

6. 腎機能低下患者では高い血中濃度が持続するので、下記の用法・用量を目安として、必要に応じて投与量を減じ、投与間隔をあけて投与することが望ましい（「薬物動態」の項参照）。

腎機能Ccr (mL/min)	用法・用量
20 ≤ Ccr < 50	初日500mgを1回、2日目以降250mgを1日に1回投与する。
Ccr < 20	初日500mgを1回、3日目以降250mgを2日に1回投与する。

◆ **事例のポイント**

○多職種で連携して患者へ医療を提供する取り組みを行い、その連携の中で入手した患者情報を基に適正な薬物治療につなげた事例である。

○本事業部が運営している医療事故情報収集等事業が公表している医療安全情報No. 145（2018年12月）では、添付文書上、腎機能が低下した患者には投与量を減量することや慎重に投与することが記載されている薬剤を常用量で投与し、患者に影響があった事例を紹介している。http://www.med-safe.jp/pdf/med-safe_145.pdf

○腎で排泄される薬剤が処方された際は、患者の腎機能を確認し、その情報を基に処方監査を行うことで、薬剤の血中濃度上昇により引き起こされる副作用を未然に回避することが可能となる。
 【原文のまま抜粋】

腎で代謝・排泄される薬剤を調剤する際は、患者の腎機能を確認する必要があります。 下記に示す資料等により、腎機能低下時に注意の必要な薬剤について薬品棚に注意喚起の掲示をしたり、レセコンの薬品マスタに【腎】等の文字を入れるなど、調剤時、服薬指導時に、腎機能に応じた用法・用量であるかを適切に評価できるよう安全対策を行いましょう。

腎機能低下時の薬剤投与量についての参考資料

- ◆ 『腎機能別薬剤投与量POCKETBOOK 第2版』（じほう）
- ◆ 『腎不全と薬の使い方Q&A－腎不全時の薬物投与一覧』（じほう）
- ◆ 腎機能低下時に最も注意が必要な薬剤投与量一覧（日本腎臓病薬物療法学会HP）
<https://www.jsnp.org/ckd/yakuzaitoyoryo.php>



※ 腎機能の指標となる検査値を取り上げた医療安全通信 第57号（PB1899-1900）も参考にしてください。

旭川薬剤師会公式サイトに医療安全通信のバックナンバー、掲載資料、リンク先を掲載しています。

